

越年草

1つの花から膨大な数の種子が

ナガミヒナゲシ

Papaver dubium L.

ケシ科ケシ属

- 自生環境
道ばた・荒地・野原
- 花期：4～5月
- 果期：5～7月
- 帰化(ヨーロッパ原産)

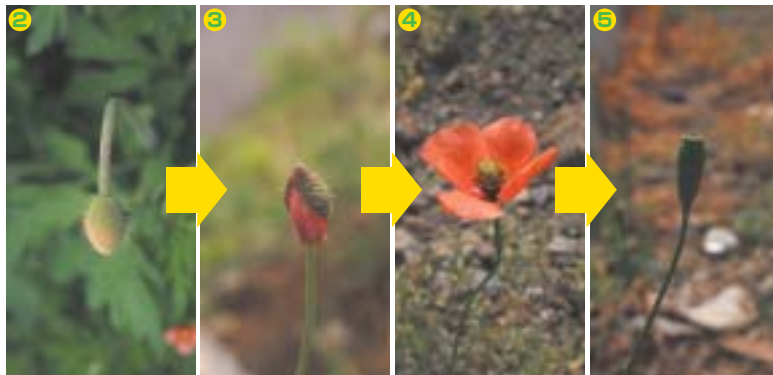
ケシ科



①は花期の全体像です。いわゆる、ポピーによく似たスタイルをしています。

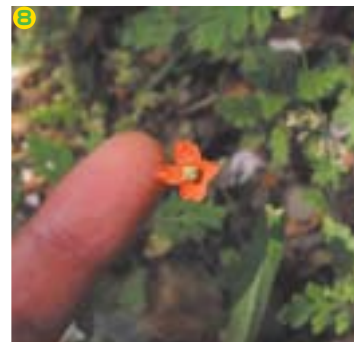
②→③→④→⑤は、つぼみから開花・結実の様子を並べたものです。つぼみのときはうなだれていますが、花が咲くと上を向きます。また、つぼみの時は帽子のようなものをかぶっていて、それがぼろっとはずれて開花へといたします。花は通常4弁花ですが、5弁だったり、6弁だったり、花弁の枚数はいろいろです。花が終わると、花弁がはらはらと散り、果実期に入ります。

つぼみ～開花～結実の流れ



110 ①花期の全体像 ②つぼみ ③花が開く直前の様子 ④花 ⑤果実

ナガミヒナゲシ、脅威の繁殖力



⑥は熟した果実です。果実の上部の蓋との間にすき間ができ、そこから種子が散布されます。そして、種子の数が膨大です。果実を1つとって、中から種子を出してみたのが⑦です。1つの果実から、こんもりひとやまできるほどの種子が採れます。

また、⑧は、とても貧弱な状態で咲いた花です。このように非常に貧弱な個体でも開花・結実の能力を持っているため、その繁殖力は猛烈なものがあります。

ケシ科



⑨は発芽シーン、⑩はある程度大きくなった様子です。冬季はこのような姿で越冬していることが多いです。

⑥熟した果実 ⑦1つの果実から山盛りの種子 ⑧貧弱でも花をつけた様子 ⑨発芽の様子 ⑩若苗の様子